

この絵巻で取上げた「計 8 件の大海戦」絵巻の中から、前回「その 1、白村江の戦い」に続いて、今回の「**その 2**」は、「**レパントの海戦**」と「**アルマダの海戦**」の 2 件について解説する。

1. レパントの海戦

1. 概要

- 1) 「時」は正に世界が大きく世界の海に開かれてゆく **大航海時代の初期 1571 年**。既に、コロンブスの第一回航海(1492 年)。バスコダ・ガマのインドカリカット到着(1498 年)から約 3/4 世紀が経過。地中海の時代から世界の海の時代への移行が予感される時代。
- 2) 「場所」は**地中海中央部ギリシャの西海岸**、コリント湾の西出口のレパント沖。イタリアの南端「かかと」の対岸位置。この細く入り込んだ湾は、その先の地峡には、両岸が掘削された切り立った壁の続く同名の運河で有名な所である。
- 3) 「戦う」のは、「ヴェネチア」を主力にカトリック教国の盟主スペインの王子をリーダーとする「**キリスト教国連合艦隊**」と「**オスマン帝国**」の**大艦隊**。地中海の制海権をかけた世紀の戦い。「**キリスト教国連合艦隊**」が大勝、**31 年前に同様の海戦で敗れた「プレヴェサの海戦」の報復をはたす**。
- 4) この戦いの後、「歴史の流れ」は大きく西に流れはじめる。国際政治のパワーバランスにおいてもイスラム・オスマンの勢力の衰退のタ

交戦勢力	
神聖同盟: 教皇 スペイン ヴェネツィア共和国 ナポリ王国 ジェノヴァ共和国 マルタ騎士団	オスマン帝国
指揮官	
ドン・ファン	アリ・パシャ
戦力	
ガレー船 206 隻 ガレアス船 6 隻 ガレオン船 26 隻 補助艦 76 隻 兵員 84,000 砲 1800 門	ガレー船 220-230 隻 ガリオット船 50-60 隻 兵員 88,000 砲 750 門
損害	
戦死者 7650 負傷者 7785 ガレー船 12 隻喪失	戦死者 2 万 5000 捕虜 7000 船 240 隻喪失

図 1 レパントの海戦 1)より

回覧

ーニング・ポイントとして重要な海戦とされている。**地中海の制海権はイスラムからキリスト教国に**次第にうつる。その意味でも重要な転機となる

- 5)「**海の世界**」は、**地中海から世界へ**ひろがる。——中世の地中海の世界の中で、**海運業・造船業の「現代に通じる原型」を確立して画期的な実績を作り上げた海運国家「ヴェネチア」**の衰退の転機ともなった。これ以後、海の勢力の重心は、「ヴェネチア」から「スペイン、ポルトガル、オランダ」そして「英国」へと移ってゆく。

2. オスマン帝国とは。

1281(建国)～1922(滅亡)年、

建国——現在のトルコ西北部の小国より興り、拡大(右図)

最盛期——

1538 年「**プレヴェサの海戦**」に勝利。

「レパントの海戦」の 33 年前、同海戦の海域の北約 100km 海域での戦。この海戦でオスマン帝国海軍は、スペイン、ヴェネチア、ローマ教皇連合艦隊を撃破。キリスト教連合艦隊は敗走。オスマン帝国はクレタ、マルタ島を除く全地中海の水域

を掌握し、カトリック側の海洋勢力に対し優位を確立した。

1529 年、1683 年 二度にわたりウィーンを包囲する。

地中海(東部)の制海権を掌握するイスラム教の強大国家。

1571 年「レパントの海戦」敗戦

1923 年 革命により版図解体・縮減してトルコ共和国となる。



2. ヴェネチアとは。——

(イタリア語でヴェネチア(最近は一般に多用)、英語ベニス)。最大版図 →

建国——歴史の始まり= 452 年。

ヴェネチア共和国 697 年。

10C 後半よりイスラムと商業条約を結び交易拡大。

1204 年= 第四回十字軍と共に東ローマ帝国の首都コンスタンチノープルを攻略。代償としてクレタ島を



海外領土として得る。東地中海最強の海軍国家となると共に最大の勢力となる。

15C 後半= キリスト教世界で屈指の海軍力をもつ都市国家。オスマン帝国の進出により次第に海外領土を奪われる。

1538年 「プレヴェサの海戦」キリスト教連合艦隊はオスマン帝国艦隊に敗れる。

1571年 「レパントの海戦」に勝利。

国家崩壊(1797年)——ナポレオン・ボナパルトに侵略され、事実上国家崩壊。

3. 世界最大の造船・海運国とシステムの確立

1)造船——最大の造船国。造船業の成立。ヴェネチアにおいて、造船は重要な国営組織。

建造現場、材料倉庫、設計、管理の分業が確立し、組織体としての造船技術が初めて確立された。造船技師は貴族並みに優遇された。当時の造船所はヴェネチア本島に伊海軍の管理下に「アルセナーレ」として残る。最盛期にはガレー船軍船を一日一隻竣工させる当時ヨーロッパ最大の造船国。

2) 海運——海運業システムの完成。他のほとんどの国は海運は国営だったが、ヴェネチアでは海軍と海運の複合国家で、軍事を兼ねた大型船は国営、その運行は民営、小型の帆船は完全民営。

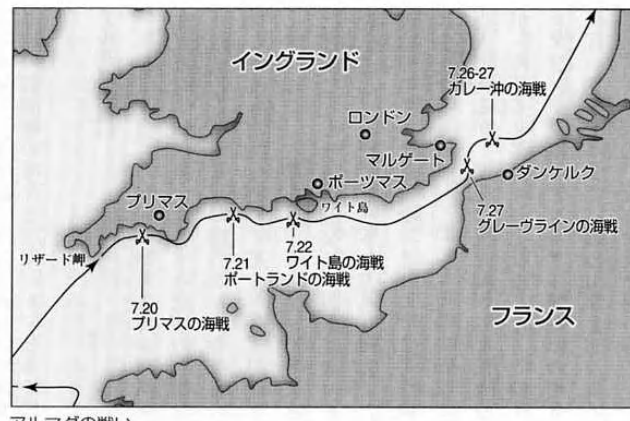
更に、現在の海運業の金融・保険・経営などの基本形態が略この国で完成された。それは、船舶の所有権の分割所有制度、利益を分配する裁判所を介しての分配制度、荷役・海損制度、船員の雇用・海賊被害保証制度、船級協会につながる船舶の格づけ制度、銀行補償証のコンセプト、海上保険の原型等などである。

2. アルマダの海戦(1588年)

イギリス、スペインの無敵艦隊をやぶる(1588年)。

1. 由来

スペイン王フェリペ2世がイギリス制圧のために派遣した艦隊。アルマダとも呼ばれる。〈無敵艦隊 Armada Invencible〉の名は後世イギリス人が付けたもので、当のスペインでは単に〈大艦隊 Gran Armada〉と呼ばれた。いずれにせよ、事件そのものとしては〈ドーバーの海戦〉と呼ぶべきものである。



第4図 無敵艦隊の航路と海戦場所。

(English Channel ,Strait of Dover)

2. 艦隊の派遣理由と編成

- 1) 宗教上の理由——16世紀後半、西ヨーロッパ情勢は宗教分裂に政治対立が重なり、複雑を極めた。その中であってハプスブルク体制の筆頭国でありカトリック・ヨーロッパの覇者を自任するスペインにはおのずから周囲の嫉妬、警戒心、敵意が集中した。スペインとイギリスは16世紀前半までは良好な関係にあった。しかし、**エリザベス1世が即位(1558)**すると、やがてカリブ海域におけるそれまでのスペインの独占体制がイギリス船の進出によって破られ、加えて**エリザベスはフランドルの反スペイン闘争を積極的に支援**した。このために両国関係は一転して悪化の一途をたどり、その過程でエリザベスはフェリペ2世がスコットランドでのカトリック再興の希望を託していた、同じカトリック教徒の**メアリー・スチュアート**(スコットランド女王在位1542-67年)をイングランド王室転覆の陰謀のかどで処刑した。ここに至ってフェリペはついに実行行使に踏み切った。
- 2) 海賊行為に対して——**イギリスが海賊行為(私掠船)をやめなかった**—— スペイン船へのイギリス私掠船の「**海賊行為の停止申し入れ**」に対して、やめなかった。
- 3) 政治的理由——フェリペ2世(スペイン王)の野心とイギリスの世界進出との衝突

①複雑なスペインとイギリス王室の婚姻関係と、フェリペ2世(スペイン王)の野心

——**フェリペ2**

世(スペイン王)

在位1556-98

年。エリザベス

1世(イングランド女王)在位155

8-1603年。フェ

リペ2世はかつてエリザベス

女王の前のイングランド女王

(1553-5年)

のメアリー1世

と結婚していた

ことから、自分がイングランド

王になる野心

を持っていた。

義理の妹にあ

たるエリザベス

1世にプレッシャーをかけるが、彼女ははねつけ

パーズン・クイーンとしてイングランド発展に

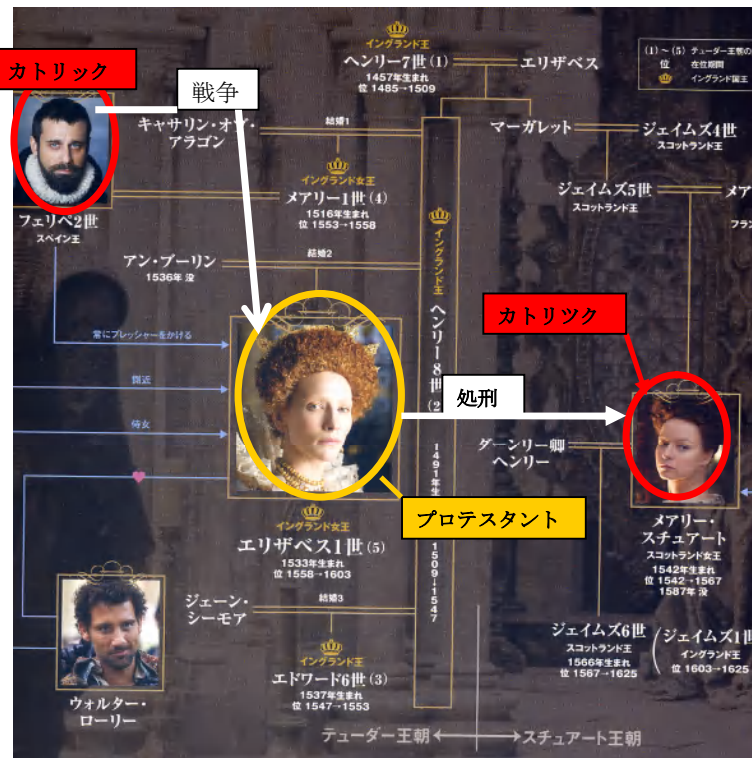


図 5 英・スペイン王室の婚姻関係 1). 顔写真は俳優

1世にプレッシャーをかけるが、彼女ははねつけ**パーズン・クイーン**としてイングランド発展に

尽力し成果をあげる。1)Elizabeth the Golden Age 2007年 英国映画(東宝東和配給)

②フェリペ2世——かつてイングランド摂政メアリーと結婚してイングランド王の称号を頂いたことのあるスペイン王フェリペ2世。彼は絶対君主としてスペイン、イタリアの大部分、オランダ、ブラジルを除いたアメリン大陸の大部分を支配していた。つまり地上最強の君主。更に

東洋に支配権を及ぼそうとしていた。その彼にとって、新興のイギリスの台頭は、いずれ痛撃を与えるべき運命の関係になっていた(資料2 「アルマタの戦いースペイン無敵艦隊の悲劇」 マイケル・ルイス著、新評論1996年)。

3. 艦隊の編成

当時のスペイン王室の歳入額に相当する金額を投じてリスボン港で編成された〈大艦隊〉は戦艦68隻を含む合計130隻で、これに陸海合わせて約3万近くの将兵が乗り込んだ。艦隊の目的は**フランドル駐留の陸軍をイギリスに輸送**することにあり、海戦の場合は伝統的な衝角戦で臨む戦術だった。しかし、**迎えるイギリス海軍は射程の長い軽砲を装備した動きの速い小型船を主力に据えていた**。両軍の戦術と装備の違いは7月30日の緒戦からイギリス軍の有利となって現れ、スペイン軍は悪天候下の狭いドーバー海峡を北へ追われるはめに陥った。そしてカレー港で火船の奇襲を受けてからは統率と戦意を失って北海経由でひたすらスペインに帰着することだけを目ざした。船の3分の2以上は帰着を果たしたが、多くの下士官と水兵が死んだ。

従来、〈大艦隊〉の敗北はただちに両国海軍の地位の逆転をもたらしたとされてきたが、実際にはフェリペは2年間で海軍を再建・補強し、その結果、海戦後40年間はスペインの大西洋支配は不動だった。それでも遠征の失敗は、グラナダ征服戦以来自国の軍事行動を神への奉仕と確信してきたスペインの世論に、深刻な動揺を与えたことは確かである。(小林 一宏)

3. 両・海戦における船型

書式変更：フォント：太字

書式変更：フォント：太字



1. アルマダの海戦

1.1 イギリスの
ガレオン船、

図 6

セントマイケル号
1569年に建造、
カノン砲96門、大型
軍艦の代表船。

1. アルマダの海戦

1.2 スペインのガレオン船。



図 7

サンマルチン号

カノン砲48門、水夫
177人、兵士300人。

1.3 スペイン無敵艦隊と戦ったイギリスのガレオン船の最大の船。



図 8. トライアンフ
号、

以上、3隻は次の資料より引用

3) 「世界帆船画集—波濤を越えて」 東喜三郎 画文 成山堂 平成14年1月

2. レパントの海戦のガレー船

2.1 ガレー船——ガレー船の特徴は両舷に数多く備えられた「オール」。1本に2-5人がつく。人力によるために限界があるものの、これによって微風時や逆風時でもある程度自由に航行することが可能。これは風が大洋に比べて弱く、また不安定な地中海では重要

な要素であり、この地域でガレー船が発達する要因であった。帆走船に比べて数は少ないながら帆も装備されており、これらは順風に恵まれている時に用いられた。



図 9-1
重厚な船体。船首には敵艦に体当たりする衝角。

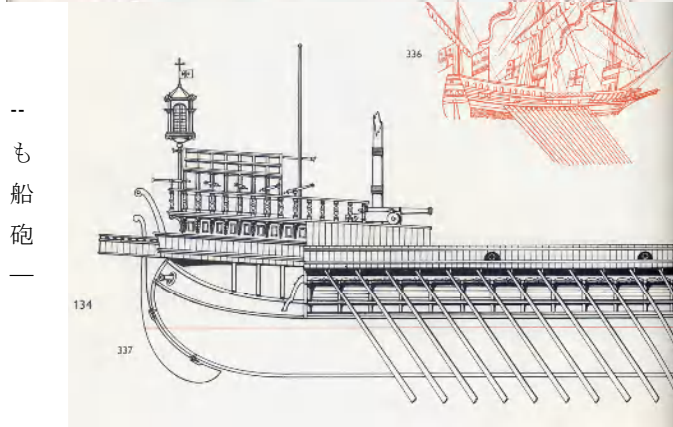
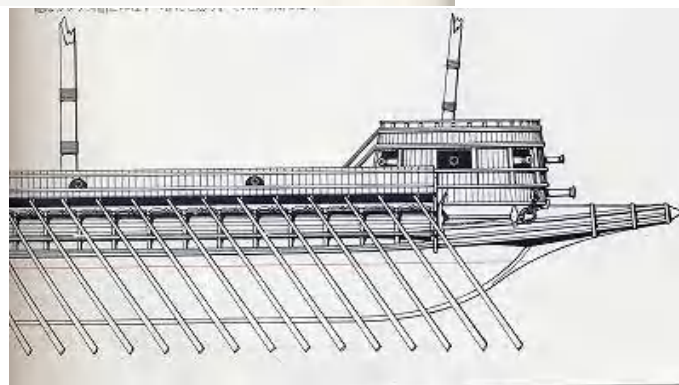


図 9.2 レパント海戦図から起こしたもの。船首に 8 門、船尾に車つきの大型砲 2 門装備。
←船尾側

図 9.3
船首側 →



引用
4)「星と舵の航跡、船と海の六千年」
ピョートルン・ランドストローム著
石原新太郎監修、ノーベル書房より

以上